

フライフ製造事業に参入

製紙、再生原料向けに

紺野企業（本社・神奈川
藤沢市、紺野秀

宣社長、☎0466・

45・3952）は6

月、廃プラスチックを
破碎・フライフ化したも

のを圧縮梱包し、製紙

工場の代替燃料やマテ

リアルリサイクル（再
生利用）向けに販売す

・5ト、圧縮梱包16ト

となっている。自ら設

計を手掛けた安価なシ
ステムになっており、
外販・需要家紹介も行

う。

同社は1956年

（昭和31年）の設立で、

関東一円での産業廃棄

物収集運搬事業と廃プ

ラスチックリサイクル

（中間処理）、OA機器

の解体・リサイクルな

どを手掛けていた。廃

プラについては当初、

廃発泡スチロールを原

料に建設資材を製造す

る事業を手掛けていた

が、その後、溶融イン

ゴット化、再生ペレッ
ト製造にシフトした。
ほかの樹脂も圧縮を施
して再生プラ原料など
として出荷している。

今回設置した新工場

ではまず、目視と人手

で塩化ビニルを取り除

き、2軸破碎機（1次）

に投入、粗破碎してコ

ンベアに載せ、近赤外

線検知・エア噴射式の

塩ビ選別機にかけて塩

ビを除去する。さらに

1軸破碎機（2次）で

50ミリの角以下のフライフ

にして圧縮し、フライフ

フィルムで梱包する。フ

ライフはサンプルを採

り、含有塩素濃度を定

期的に測定、需要家に

報告する。

塩ビが混入しておら

ずあらかじめ粉碎され

たものは、ピットに入

れて直接、圧縮・梱包

する。農業用ポリフィ
ルムのマテリアルサイ
クルも手掛ける計画
で、フライフ化したもの
を洗浄して梱包する。

紺野社長は「製紙会

社など代替燃料の需要

家では、木くずチップ

などの確保が今後難し

くなる。廃プラのフライフ

化事業をさらに広げ

たい」としている。



廃プラのフライフ製造施設

碎・圧縮4

る事業を始
めた。新設
した綾瀬第
2工場「E
3」（神奈川
県綾瀬市）
に加工シス
テム一式を
導入したも
ので、1日
（8時間）
当たりの処
理能力は廃
プラ類の破